

第九十六回 日本医史学会総会 演題目次

会長講演

日本における血液学・輸血学史の流れより……………日比野 進…(6)

特別講演①

飛驒の庶民・農民の生活史から得られたもの―往還寺過去帳の研究……………須田 圭三…(11)

特別講演②

江馬家文書世界を生きた人々……………岩崎 鐵志…(16)

特別講演③

尾張藩・名古屋を中心とした江戸時代の医療の流れ……………奈倉 道治…(23)

一般口演

- 1 『扶氏診断』訳者への疑問 ―島村鼎甫の可能性―……………津下 健哉…(30)
- 2 石阪堅壮(肝吸虫発見者)の著述について……………中山 沃…(32)
- 3 芸南の先人たち 特に『迨孫疫痢考』をめぐって……………江川 義雄…(34)
- 4 尾張・三河の種痘史 補遺……………山田 英雄・山内 一信・高橋 昭…(36)
- 5 『元禄世間咄風聞集』所載の医薬学関連の咄……………浜田 善利…(38)
- 6 産科医兼子元隣とその著書『産科成解』(1)……………奈倉 道治…(40)
- 7 古代における瀉血……………藤倉 一郎…(42)
- 8 江戸前中期の瀉血療法……………友部 和弘・真柳 誠…(44)

9	魯迅医学筆記について……………	泉	彪之助……………(46)
10	名古屋における太田正雄……………	長門谷	洋治……………(48)
11	富士川游と看護療法……………	平尾	真智子……………(50)
12	藤浪鑑先生病症記・葬送記及び追悼文集について……………	杉立	義一・杉山 武敏……………(52)
13	三浦梅園における獸胎解剖の視座……………	近藤	均……………(54)
14	永富独嘯庵(『漫遊雜記』一七六三年)にみる「狂」の用語について……………	小曾戸	明子……………(56)
15	精神科病医アルブレヒト・フォン・ローレツ……………	岡田	靖雄……………(58)
16	アルブレヒト・フォン・ローレツの研究(2)……………	小形	利彦・エリツヒ・ラブル……………(60)
17	長崎家収蔵の『折肱録』について……………	正橋	剛二……………(62)
18	長崎浩齋筆『味噌欺録』と「淋石」……………	寺畑	喜朔……………(64)
19	杉田玄白門人高峰幸庵について……………	津田	進三……………(66)
20	向井元升と『紅毛流外科秘伝』について……………	ヴォルフガング・ミヒエル……………	……………(68)
21	藍屋佐兵衛の妻と勝股元碩の妻 — 青洲の乳癌患者について —……………	松木	明知……………(70)
22	不破家華岡流手術図について……………	山内	一信・不破 洋……………(72)
23	明治期ドイツ留学もしくは視察した眼科医達……………	奥沢	康正・ユルゲン・コバチ……………(74)
24	サロモン氏産科鉗子……………	石原	力……………(76)
25	済生学舎廃校後の各種講習会及び私立東京医学校・私立日本医学校……………	唐沢	信安……………(78)
26	『日本聖公会教役者名簿』記載の来日外国人医師について……………	高安	伸子……………(80)
27	宇良田唯子とその時代……………	三崎	裕子……………(82)
28	池田文書と待医制度……………	遠藤	正治……………(84)

29	医学系の海外留学生（韓国一八九六〜一九四五）	奇昌徳	(86)
30	幕末から明治中期にかけての英米系医学の受容	大滝紀雄	(88)
31	第二次大戦後の医学教育変革について	酒井シヅ	(90)
32	暉峻義等の社会衛生学への傾斜	三浦豊彦	(92)
33	中国医学と道教（XVI・西遊記）	吉元昭治	(94)
34	雲夢睡虎地秦墓竹簡にみるらい病の診断と法律	猪飼祥夫	(96)
35	『素問』・『靈枢』における非医籍からの引用	岩井佑泉	(98)
36	南化本『史記』幻雲附標に引かれる『存真環中図』について	宮川浩也・真柳誠・小曾戸洋	(100)
37	蘇頌と『図経本草』	王少麗	(102)
38	幻雲が引用した『東垣十書』	真柳誠・宮川浩也・小曾戸洋	(104)
39	北尾春圃著『当仕庵医按』について	安井広迪	(106)
40	月舟寿桂から曲直瀬道三へ―『禪本草』をめぐる―	小曾戸洋・宮川浩也・真柳誠	(108)
41	「錢七」は「錢上」の訛	郭秀梅・岡田研吉	(110)
42	徳川昭武公の『順天堂入院日誌』について（第一報）	中西淳朗	(112)
43	本邦最初の血液学書入沢達吉纂訳『血液病理学及図譜』について	会田恵	(114)
44	臨床検査という言葉の発祥と内容の史的推移 ―特に臨床検査技師の発展との関連について―	谷島清郎	(116)
45	医療関連資料（史料）の現状と問題点	網野豊・酒井シヅ	(118)
46	名古屋市博物館所蔵の木骨について	蒲原宏	(120)

- 47 「みる」ための画像と「みせる」ための画像……………高比良 英輔…(122)
- 48 新幹線の発音は〔inkansen〕か—学術語のカタカナ書きについて……………柴田 幸雄…(124)
- 49 西紀町のアスクレピオス像……………石原 理年…(126)
- 50 患者の心性および「よい患者」の歴史的考察……………杉田 暉道…(128)
- 51 古代日本に於ける呪術医療の思想的基盤……………稲垣 直…(130)
- 52 「花園天皇宸記」に表われる花園天皇の口腔並に顔面の疾病について……………戸出一郎…(132)
- 53 葛原勾当日記にみる歯痛と気象……………新藤 恵久…(134)
- 54 エナメル質微細構造の歴史……………西卷 明彦…(136)
- 55 敗戦・陸軍少佐青酸自殺・救命処置・蘇生……………中室 嘉祐…(138)
- 56 軍医寮発足のさいにみられた東校と兵部省の確執……………深瀬 泰且…(140)
- 57 陸軍軍医講習生仮規則……………黒澤 嘉幸…(142)
- 58 史料としてのオランダの「解剖学講義」の画……………石田 純郎…(144)
- 59 G・ビドローの楽譜……………中原 泉…(146)
- 60 フランスのムラージュ(蠟製皮膚病模型)について……………今泉 孝…(148)
- 61 ジョン・ハンター再考……………栗本 宗治…(150)
- 62 P・J・デソーとその処置デブリドマンについて……………大村 敏郎…(152)
- 63 マルチエッロ・マルピーギの医学論……………伊藤 和行…(154)
- 64 Moritz Heinrich Romberg —そのプロフィールと「脊髄癆」・「半側顔面萎縮症」
「群発頭痛」の原著……………高橋 昭・伊藤 泰広・白水 重尚…(156)
- 65 オキユペーショナル・セラピー(OT)の発展—米国と日本の比較……………鈴木 明子…(158)

— 脳研究者ハルトヴィヒ・クリーレンベック（一八九七—一九八四）の意識論の背景 …… 濱 中 淑 彦 …… (160)

発表日時

会長講演・特別講演①・一般口演1〜32

平成七年六月一〇日(土)

特別講演②③・一般口演33〜66

六月二一日(日)

〈本号の表紙絵〉

醫學館藥品會

「毎年六月十日(旧曆)にして山海の禽獸蟲魚鱗介草木・玉石銅錢等のあらゆる奇品をはじめとして、竺支西洋東夷の物産までを一萬餘種集め、廣く諸人にも見る事をゆるし、當日見物の貴賤、老弱、隣國近在よりも湊いて群をなす。」

『尾張名所圖會』卷二(天保12年・1841年)にこのように記載されている。この藥品會を主催したのは代々、官医から町医までの監督をする立場にあった浅井家で、医学の書生・塾生が多数出入りしており、この地域の医学の中核をなしていた。

今回名古屋で日本医史学会が開催されるに当たり、古い時代の当地の医学の活性とそれに伴う賑わいを紹介しておきたい。(奈倉 道治)